

仙林寺だより

NO. 32
編集・発行
松田正貴

行事報告

大立目薬師如来祭礼・観桜茶会

四月十一日十時より、薬師如来祭礼、十一時より観桜茶会に招待を受けました。大立目地区では毎年、地域おこし事業として数々のイベントを企画されておりあります。昨年は、寿会、育成会員を対象とする「坐禅会」が催され、副住職が講師を勤めさせて頂きました。その縁もあって、今年の野点にもご招待を受け、町長様はじめ、地域の来賓の方々と同席させて頂く事となりました。当日は天候にも恵まれ、また桜花爛漫絶好の花見日和、野点としては、予想をはるかに越えた素晴らしい演出で、こちらますます茶坊主気分を味わえました。正客を務めた町長さんも茶会は初めての様子、来賓面々のお作法もご愛嬌、利休居士の「わび茶は、只たてて、只のむのみ」という言葉もございませぬ。まずは、桜の花の下、「茶に逢つては茶を喫す」と言つたところでしょう。

毎年、素晴らしい企画を立てられます区長黒直二さんはじめ地域のの方々には本当に感心させられます。町内それぞれの地域でこの様な催しが行われれば、人と人との輪も広がり、互いに助け合う力にもつながるものと思ひます。大いに見習いたいものです。



薬師様祭礼



観桜茶会 - 野点 -

仙林寺如意輪観音春期祭礼

四月十三日、仙林寺如意輪観音様の祭礼が厳修されました。観音議員さんが中心となり数日前から、もてなし料理の献立やら買出し等気を配つて頂きました。特に恒例、木の芽味噌の材料、肝心の木の芽がなかなか育たず、こればかりは、お天気勝負ということで、思うに任せず、当日午前、何とか小さな葉を開いてくれました。やはり、お天道様と、観音様は仲良しだったようです。？

寺小屋「花まつり・茶会」

十七日土曜日寺子屋です。お釈迦様の誕生日をお祝いし、伝統的な日本文化に親しもうという事で、茶会を催しました。前回に引き続き、梅花講の方々との共催で、世代間交流、寺族のお琴にのせられて雰囲気は高まります。何時に無く神妙な様子でお手前を見つめる子供たちは真剣そのもの、苦味を嫌がるかとの心配などどこ吹く風、一人がおかわりすればお決まりのパターン、全員が右習い。裏方さんのお茶たては大忙しでした。



花まつり



お手前に真剣な眼差

こうなつたら、私も正客などと黙って坐つては居れませぬ。茶碗を持つ手にはいつの間にか茶せんが・・・お茶立てマシーンと化しました。冗談はともかく、どんな状況でもそうですが、自分ももてなす立場を経験することで、はじめて、もてなして頂くと云う事がどういふ事なのか判るのでしょう。禅の言葉に「随所に主となれば立処皆真なり」があります。どのような立場になつても、そこが「主人公」、茶道では、亭主と客との役割が勿論あるわけですが、亭主も「主」、客も「主」お互いその役割として「主」と敬い認め合う。結果、その大調和の世界、寂然不動の心境に自由に遊ぶ、いわゆる「和敬静寂」の心が生まれるのでしよう。「茶禅一如」禅も茶も、「こだわりなく」がポイントです。

お知らせ

仙台寺ホームページにライブカメラを導入します。四季折々の境内の様子、本堂での行事など、インターネットを通じてご覧いただけます。

公開は五月上旬の予定。お楽しみに。